

# 「安全な水」被災地に

何十年も続く恐れのある、放射能に汚染された水への不安。絶望的な状況の中、放射性物質を除去できる災害対応浄水装置が関心を集める。

開発したのは浄水器製造販売会社「ニューメディアカ・テック」(吹田市)の社長、前田芳聡さん(55)だ。

もともと大手水質分析メーカーの技術者。退社して浄水器会社の起業を目指していた矢先、阪神大震災が起きた。被災地を訪ね、汚れた川の水を沸かして飲む被災民の光景を何度も見た。この体験が、技術者魂に灯をつけ、災害用浄水器の開発につながった。

## 「逆浸透膜」で浄化

1000万分の1ミリという細かい穴が多数開いたろ過膜「逆浸透膜」が汚れた水に圧力をかけ、この膜を通してさせることで、水に溶け込んだ農薬や有害な金属イオン、ウイルスなどを取り除く。

前田さんが開発した浄水装置は水を循環させるポンプや浄化後の水質をチェックするセンサーを内臓。なおい除去のフィルターを組み合わせている。

## 被災地に 無償貸し出し

東日本大震災では、福島

## 放射性物質 浄水器で除去



浄化装置の前には多くの被災民が給水に列をなした=福島県国見町の仮設住宅で

県飯館村の放射能汚染された「ため池」の水を提供してもらい、三菱マテリアテクノ大阪化学分析センターで調査し、実証データを取得した。

装置の有効性が実証され、前田さんは被災地3県の公共施設に16台の装置を無償で貸し出した。被災地ではお年寄りや幼児連れの

子どもを連れた母親らがタンクやペットボトルを持って給水。「安心して子どもに水を飲ませられる」など感謝の言葉が届いている。

前田さんは「風向きで放射性物質の流れが変わる。今後もどの地域にくるか分からない。放射性除去装置は必要」と強調する。

Disaster prevention power of Osaka